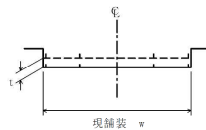


現行

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	
							個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X ₁₀)
3	2	6	15		路面切削工	厚 さ t	-7	-2
						幅 w	-25	—

単位：mm

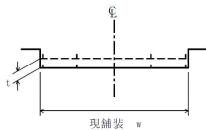
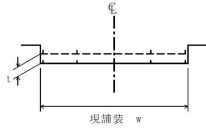
測定基準	測定箇所	摘要
厚さは 40m毎に現舗装高切削後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 延長 40m未満の場合は、2ヶ所/施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。 測定方法は自動横断測定法によることが出来る。		

新規追加

改定内容

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	
							個々の測定値 (X)	測定値の平均 (X̄)
3	2	6	15	1	路面切削工	厚 さ t	-7	-2
						幅 w	-25	—
3	2	6	15	2	路面切削工 (面管理の場合) 標高較差または厚さ t のみ	厚 さ t (標高較差)	-17 (17) (面管理として緩和)	-2 (2)
						幅 w	-25	—

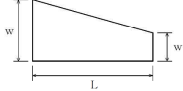
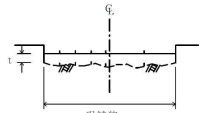
単位：mm

測定基準	測定箇所	摘要
厚さは 40m毎に現舗装高切削後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 延長 40m未満の場合は、2ヶ所/施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。 測定方法は自動横断測定法によることが出来る。		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 施工履歴データを用いた出来形管理要領(案)(路面切削工編)に基づき出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 計測は切削面の全面とし、すべての点で設計面との厚さ t または標高較差を算出する。計測密度は 1点/m² (平面投影面積当たり) 以上とする。 3. 厚さ t または標高較差は、現舗装高切削後の基準高との差で算出する。 4. 幅は、延長 40m 毎に測定するものとし、延長 40m 未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。 		

現行

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値	
							個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X ₀)
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	16		舗装打換え工	路 盤 工	幅 w	-50
							延長 L	-100
							厚さ t	該当工種
						舗 設 工	幅 w	-25
							延長 L	-100
							厚さ t	該当工種
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	17		オーバーレイ工	厚 さ t	-9	
						幅 w	-25	
						延 長 L	-100	
						平 坦 性	—	

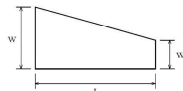
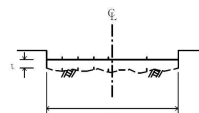
単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
各層毎1ヶ所/1施工箇所		
厚さは40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、延長80m未満の場合は、2ヶ所/施工箇所とする。断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。		

改定内容

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値	
							個々の測定値 (X)	測定値の平均 (X)
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	16		舗装打換え工	路 盤 工	幅 w	-50
							延長 L	-100
							厚さ t	該当工種
						舗 設 工	幅 w	-25
							延長 L	-100
							厚さ t	該当工種
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	17		オーバーレイ工	厚 さ t	-9	
						幅 w	-25	
						延 長 L	-100	
						平 坦 性	—	

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
各層毎1ヶ所/1施工箇所		
厚さは40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、延長80m未満の場合は、2ヶ所/施工箇所とする。断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。		

単位：mm

現行

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値	
							個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均 (X ₁₀)
3	2	6	17	2	オーバーレイ工 (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-20	-3
						平坦性	-	3mプロファイルマーカ(σ)2.4mm以下直読式(足付き)(σ)1.75mm以下

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<ol style="list-style-type: none"> 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザーキャナを用いた出来形管理要領(舗装工事編)(案)」、「地上移動体搭載型レーザーキャナを用いた出来形管理要領(案)」または「TS(ノンプリズム方式)を用いた出来形管理要領(舗装工事編)(案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 個々の計測値の規格値には計測精度として±4mmが含まれている。 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m²(平面投影面積当たり)以上とする。 厚さは、施工前の標高値とオーバーレイ後の標高値との差で算出する。 厚さを標高較差として評価する場合は、オーバーレイ後の目標高さとしてオーバーレイ後の標高値との差で算出する。 		

単位：mm

改定内容

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値	
							個々の測定値 (X)	測定値の平均 (X)
3	2	6	17	2	オーバーレイ工 (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-20	-3
						平坦性	-	3mプロファイルマーカ(σ)2.4mm以下直読式(足付き)(σ)1.75mm以下

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<ol style="list-style-type: none"> 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザーキャナを用いた出来形管理要領(舗装工事編)(案)」、「地上移動体搭載型レーザーキャナを用いた出来形管理要領(案)」または「TS(ノンプリズム方式)を用いた出来形管理要領(舗装工事編)(案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 個々の計測値の規格値には計測精度として±4mmが含まれている。 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m²(平面投影面積当たり)以上とする。 厚さは、施工前の標高値とオーバーレイ後の標高値との差で算出する。 厚さを標高較差として評価する場合は、オーバーレイ後の目標高さとしてオーバーレイ後の標高値との差で算出する。 		

単位：mm

現行

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3	2	7	9	1	固結工 (粉体噴射攪拌工) (高圧噴射攪拌工) (スラリー攪拌工) (生石灰パイル工)	基 準 高 ∇	-50
						位 置・間隔 w	D/4 以内
						杭 径 D	設計値以上
						深 度 L	設計値以上

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
100 本に 1ヶ所。 100 本以下は 2ヶ所測定。 1ヶ所に 4 本測定。 全本数 $L = \ell_1 - \ell_2$ ℓ_1 は改良体先端深度 ℓ_2 は改良体天端深度		

新規追加

改定内容

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3	2	7	9	1	固結工 (粉体噴射攪拌工) (高圧噴射攪拌工) (スラリー攪拌工) (生石灰パイル工)	基 準 高 ∇	-50
						位 置・間隔 w	D/4 以内
						杭 径 D	設計値以上
						深 度 L	設計値以上
3	2	7	9	2	固結工 (スラリー攪拌工) 「施工履歴データを用いた出来形管理要領（固結工（スラリー攪拌工）編）（案）」による管理の場合	基 準 高 ∇	0 以上
						位 置	D/8 以内
						杭 径 D	設計値以上
						深 度 L	設計値以上

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
100 本に 1ヶ所。 100 本以下は 2ヶ所測定。 1ヶ所に 4 本測定。 全本数 $L = \ell_1 - \ell_2$ ℓ_1 は改良体先端深度 ℓ_2 は改良体天端深度		
杭芯位置管理表により基準高を確認 全本数 施工履歴データから作成した杭芯位置管理表により設計杭芯位置と施工した杭芯位置との距離を確認 （掘起しによる実測確認は不要） 工事毎に 1 回 施工前の攪拌翼の寸法実測により確認 （掘起しによる実測確認は不要） 全本数 施工履歴データから作成した杭打設結果表により確認 （残尺計測による確認は不要）		

単位：mm

現行

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値		
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	12 工 場 製 作 工	1	1	铸造費 (金属支承工)	上下部 鋼 構 造 物 と の 接 合 用 ボ ル ト 孔	孔の直径差	+2 -0	
						中心距離	センターボスを基準 にした孔位置のずれ		
							≤1000mm	1以下	
							センターボスを基準 にした孔位置のずれ		
							>1000mm	1.5以下	
						アンカー ボルト 用孔 (鑄放し)	孔の直径	≤100mm	+3 -1
								>100mm	+4 -2
						孔の中心距離		JIS B 0403-95 CT13	
						センター ボス	ボスの直径	+0 -1	
							ボスの高さ	+1 -0	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
		製品全数を測定。

単位：mm

改定内容

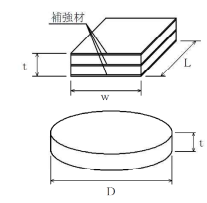
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値			
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	12 工 場 製 作 工	1	1	铸造費 (金属支承工)	上下部 鋼 構 造 物 と の 接 合 用 ボ ル ト 孔	孔の直径差	+2 -0		
						中心距離	ボスの突起を基準 とした孔の位置ずれ			
							≤1000mm	1以下		
							ボスの突起を基準 とした孔の位置ずれ			
							>1000mm	1.5以下		
						ドリル 加工 孔	アンカー ボルト 用孔 (鑄放し)	孔の直径	≤100mm	+3 -1
									>100mm	+4 -2
						孔の中心距離 ※1		JIS B 0403-1995 CT13		
						センター ボス	ボスの直径	+0 -1		
							ボスの高さ	+1 -0		
ボス ※5	ボスの直径	+0 -1								
	ボスの高さ	+1 -1								

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
		製品全数を測定。

現行

単位：mm

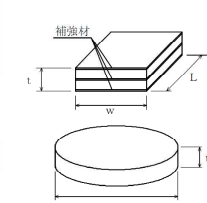
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
3	2	12	1	1	鋳造費 (金属支承工)	上巻の橋軸及び直角方向の長さ寸法	JIS B 0403-95 CT13	
						全移動量 δ	$\delta \leq 300\text{mm}$	± 2
							$\delta > 300\text{mm}$	$\pm \delta / 100$
						組立高さ H	上、下面加工仕上げ	± 3
							コンクリート構造用	H \leq 300mm
						普通寸法	鑄放し長さ寸法 ※1)、※2)	JIS B 0403-95 CT14
							鑄放し肉厚寸法 ※1)	JIS B 0403-95 CT15
							削り加工寸法	JIS B 0405-91 粗級
							ガス切断寸法	JIS B 0417-79 B級
						3	2	12
長さ L 直径 D	500 < w, L, D \leq 1500mm	0 ~ + 1 %						
	1500 < w, L, D	0 ~ + 15						
	厚さ t	t \leq 20mm	± 0.5					
厚さ t	20 < t \leq 160	$\pm 2.5\%$						
	160 < t	± 4						
	平面度	W, L, D \leq 1000mm	1					
1000mm < W, L, D	(W, L, D) / 1000							

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
製品全数を測定。 ※1) 片面削り加工も含む。 ※2) ただし、ソールプレート接触面の橋軸及び橋軸直角方向の長さ寸法に対しては CT13 を適用する。		
製品全数を測定。 平面度：1個のゴム支承の厚さ (t) の最大相対誤差		

改定内容

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
3	2	12	1	1	鋳造費 (金属支承工)	上巻の橋軸及び橋軸直角方向の長さ寸法	JIS B 0403-1995 CT13	
						全移動量 δ	$\delta \leq 300\text{mm}$	± 2
							$\delta > 300\text{mm}$	$\pm \delta / 100$
						組立高さ H	上、下面加工仕上げ	± 3
							コンクリート構造用	H \leq 300mm
						普通寸法	鑄放し長さ寸法 ※2)、※3)	JIS B 0403-1995 CT14
							鑄放し肉厚寸法 ※2)	JIS B 0403-1995 CT15
							削り加工寸法	JIS B 0405-1991 粗級
							ガス切断寸法	JIS B 0417-1979 B級
						3	2	12
長さ L 直径 D	500 < w, L, D \leq 1500mm	0 ~ + 1 %						
	1500 < w, L, D	0 ~ + 15						
	厚さ t	t \leq 20mm	± 0.5					
厚さ t	20 < t \leq 160	$\pm 2.5\%$						
	160 < t	± 4						
	相対誤差	W, L, D \leq 1000mm	1					
1000mm < W, L, D	(W, L, D) / 1000							

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
製品全数を測定。 ※1) ガス切断寸法を準用する ※2) 片面のみ削り加工の場合も含む。 ※3) ソールプレートの接触面の橋軸及び橋軸直角方向の長さ寸法に対しては CT13 を適用するものとする。 ※4) 全移動量分の遊間が確保されているかをする。 ※5) 組立て後に測定		
製品全数を測定。 平面度：1個のゴム支承の厚さ (t) の最大相対誤差		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	14 法 面 工	4	1	法 枠 工 (現 場 打 法 枠 工) (現 場 吹 付 法 枠 工)	法 長 ℓ	$\ell < 10m$	-100
							$\ell \geq 10m$	-200
						幅	w	-30
						高 さ	h	-30
						枠 中 心 間 隔	a	± 100
					延 長 L	-200		
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	14 法 面 工	4	2	法 枠 工 (プ レ キ ャ ス ト 法 枠 工)	法 長 ℓ	$\ell < 10m$	-100
							$\ell \geq 10m$	-200
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	14 法 面 工	6		ア ン カ ー 工	削 孔 深 さ	ℓ	設計値以上
						配 置 誤 差	d	100
						せ ん 孔 方 向	θ	± 2.5 度

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。</p> <p>枠延長 100m につき 1ヶ所、枠延長 100m 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。</p>		<p>曲線部は設計図書による</p>
1 施工箇所毎		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。</p>		
1 施工箇所毎		
全数 (任意仮設は除く)	<p>$d = \sqrt{x^2 + y^2}$</p>	

現 行

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	14 法 面 工	4	1	法 枠 工 (現 場 打 法 枠 工) (現 場 吹 付 法 枠 工)	法 長 ℓ	$\ell < 10m$	-100
							$\ell \geq 10m$	-200
						幅	w	-30
						高 さ	h	30
						枠 中 心 間 隔	a	± 100
					延 長 L	-200		
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	14 法 面 工	4	2	法 枠 工 (プ レ キ ャ ス ト 法 枠 工)	法 長 ℓ	$\ell < 10m$	-100
							$\ell \geq 10m$	-200
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	14 法 面 工	6		ア ン カ ー 工	削 孔 深 さ	ℓ	設計値以上
						配 置 誤 差	d	100
						せ ん 孔 方 向	θ	± 2.5 度

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。</p> <p>計測手法については、従来管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形計測要領(案)」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることが出来る。</p> <p>枠延長 100m につき 1ヶ所、枠延長 100m 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。</p> <p>計測手法については、従来管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形計測要領(案)」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることが出来る。</p>		<p>曲線部は設計図書による</p>
1 施工箇所毎		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。</p>		
1 施工箇所毎		
全数 (任意仮設は除く)	<p>$d = \sqrt{x^2 + y^2}$</p>	

改 定 内 容

単位：mm

現行

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
8 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	5 鋼 橋 架 設 工	10	1	支 承 工 (鋼 製 支 承)	据付け高さ 注 1)	±5	
						可動支承の移動 可能量 注 2)	設計移動量 +10 以上	
						支 承 中 心 間 隔 (橋 軸 直 角 方 向)	コンクリート 橋	±5
							鋼 橋	4 + 0.5 × (B-2)
						下 沓 の 水 平 度	橋 軸 方 向	1 / 100
							橋 軸 直 角 方 向	
						可動支承の橋軸 方向のずれ 同一支承線上の 相対誤差	5	
可動支承の移動 量 注 3)	温度変化に伴う移動 量計算値の 1/2 以上							
8 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	5 鋼 橋 架 設 工	10	2	支 承 工 (ゴ ム 支 承)	据付け高さ 注 1)	±5	
						可動支承の移動 可能量 注 2)	設計移動量 +10 以上	
						支 承 中 心 間 隔 (橋 軸 直 角 方 向)	コンクリート 橋	±5
							鋼 橋	4 + 0.5 × (B-2)
						支 承 の 水 平 度	橋 軸 方 向	1 / 300
							橋 軸 直 角 方 向	
						可動支承の橋軸 方向のずれ 同一支承線上の 相対誤差	5	
可動支承の移動 量 注 3)	温度変化に伴う移動 量計算値の 1/2 以上							

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
支 承 全 数 を 測 定。 B：支 承 中 心 間 隔 (m)		
支 承 の 平 面 寸 法 が 300mm 以 下 の 場 合 は、水 平 面 の 高 低 差 を 1mm 以 下 と す る。 な お、支 承 を 勾 配 な り に 据 付 け る 場 合 を 除 く。 注 1) 先 固 定 の 場 合 は、支 承 上 面 で 測 定 す る。 注 2) 可 動 支 承 の 遊 間 (La, Lb) を 計 測 し、支 承 据 付 時 の オ フ セ ッ ト 量 δ を 考 慮 し、移 動 可 能 量 が 道 路 橋 支 承 便 覧 の 規 格 値 を 満 た す こ と を 確 認 す る。 注 3) 可 動 支 承 の 移 動 量 検 査 は、架 設 完 了 後 に 実 施 す る。 詳 細 は、道 路 橋 支 承 便 覧 参 照。		
支 承 全 数 を 測 定。 B：支 承 中 心 間 隔 (m)		
上 部 構 造 部 材 下 面 と ゴ ム 支 承 面 と の 接 触 面 及 び ゴ ム 支 承 と 台 座 モ ル タ ル と の 接 触 面 に 肌 寸 き が 無 い こ と を 確 認。 支 承 の 平 面 寸 法 が 300mm 以 下 の 場 合 は、水 平 面 の 高 低 差 を 1mm 以 下 と す る。 な お、支 承 を 勾 配 な り に 据 付 け る 場 合 を 除 く。 注 1) 先 固 定 の 場 合 は、支 承 上 面 で 測 定 す る。 注 2) 可 動 支 承 の 遊 間 (La, Lb) を 計 測 し、支 承 据 付 時 の オ フ セ ッ ト 量 δ を 考 慮 し、移 動 可 能 量 が 道 路 橋 支 承 便 覧 の 規 格 値 を 満 た す こ と を 確 認 す る。 注 3) 可 動 支 承 の 移 動 量 検 査 は、架 設 完 了 後 に 実 施 す る。 詳 細 は、道 路 橋 支 承 便 覧 参 照。		

単位：mm

改定内容

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
8 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	5 鋼 橋 架 設 工	10	1	支 承 工 (鋼 製 支 承)	据付け高さ 注 1)	±5	
						可動支承の移動 可能量 注 2)	設計移動量以上	
						支 承 中 心 間 隔 (橋 軸 直 角 方 向)	コンクリート 橋	±5
							鋼 橋	±(4+0.5 ×(B-2))
						水 平 度	橋 軸 方 向	1 / 100
							橋 軸 直 角 方 向	
						可動支承の橋軸 方向のずれ 同一支承線上の 相対誤差	5	
可動支承の機能確認 注 3)	温度変化に伴う移動 量計算値の 1/2 以上							
8 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	5 鋼 橋 架 設 工	10	2	支 承 工 (ゴ ム 支 承)	据付け高さ 注 1)	±5	
						可動支承の移動 可能量 注 2)	設計移動量以上	
						支 承 中 心 間 隔 (橋 軸 直 角 方 向)	コンクリート 橋	±5
							鋼 橋	±(4+0.5 ×(B-2))
						水 平 度	橋 軸 方 向	1 / 300
							橋 軸 直 角 方 向	
						可動支承の橋軸 方向のずれ 同一支承線上の 相対誤差	5	
可動支承の機能確認 注 3)	温度変化に伴う移動 量計算値の 1/2 以上							

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
支 承 全 数 を 測 定。 B：支 承 中 心 間 隔 (m)		
支 承 の 平 面 寸 法 が 300mm 以 下 の 場 合 は、水 平 面 の 高 低 差 を 1mm 以 下 と す る。 な お、支 承 を 勾 配 な り に 据 付 け る 場 合 を 除 く。 注 1) 先 固 定 の 場 合 は、支 承 上 面 で 測 定 す る。 注 2) 可 動 支 承 の 遊 間 (La, Lb) を 計 測 し、支 承 据 付 時 の オ フ セ ッ ト 量 δ を 考 慮 し、移 動 可 能 量 が 道 路 橋 支 承 便 覧 の 規 格 値 を 満 た す こ と を 確 認 す る。 注 3) 可 動 支 承 の 移 動 量 検 査 は、架 設 完 了 後 に 実 施 す る。 詳 細 は、道 路 橋 支 承 便 覧 参 照。		
支 承 全 数 を 測 定。 B：支 承 中 心 間 隔 (m)		
上 部 構 造 部 材 下 面 と ゴ ム 支 承 面 と の 接 触 面 及 び ゴ ム 支 承 と 台 座 モ ル タ ル と の 接 触 面 に 肌 寸 き が 無 い こ と を 確 認。 支 承 の 平 面 寸 法 が 300mm 以 下 の 場 合 は、水 平 面 の 高 低 差 を 1mm 以 下 と す る。 な お、支 承 を 勾 配 な り に 据 付 け る 場 合 を 除 く。 注 1) 先 固 定 の 場 合 は、支 承 上 面 で 測 定 す る。 注 2) 可 動 支 承 の 遊 間 (La, Lb) を 計 測 し、支 承 据 付 時 の オ フ セ ッ ト 量 δ を 考 慮 し、移 動 可 能 量 が 道 路 橋 支 承 便 覧 の 規 格 値 を 満 た す こ と を 確 認 す る。 注 3) 可 動 支 承 の 移 動 量 検 査 は、架 設 完 了 後 に 実 施 す る。 詳 細 は、道 路 橋 支 承 便 覧 参 照。		

単位：mm

現行

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
8 道 路 編	6 ト ン ネ ル (N A T M)	5 覆 工	3		覆工コンクリート工	基準高 (拱頂)	±50
						幅 w (全幅)	-50
						高さ h (内法)	-50
						厚 さ t	設計値以上
						延 長 L	—
8 道 路 編	6 ト ン ネ ル (N A T M)	5 覆 工	5		床版コンクリート工	幅 w	-50
						厚 さ t	-30

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>(1) 基準高、幅、高さは、施工 40m につき 1 箇所。 (2) 厚さ (イ) コンクリート打設前の巻立空間を 1 打設長の終点を図に示す各点で測定。中間部はコンクリート打設口で測定。 (ロ) コンクリート打設後、覆工コンクリートについて 1 打設長の端面（施工継手の位置）において、図に示す各点の巻厚測定を行う。 (ハ) 検測孔による巻厚の測定は図の (1) は 40m に 1 箇所、(2)～(3) は 100m に 1 箇所の割合で行う。 なお、トンネル延長が 100m 以下のものについては、1 トンネル当たり 2 箇所以上の検測孔による測定を行う。 ただし、以下の場合には、左記の規格値は適用除外とする。 ・良好な地山における岩又は吹付コンクリートの部分的な突出で、設計覆工厚の 3 分の 1 以下のもの。 なお、変形が収束しているものに限る。 ・異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付け時には安定が確認されかつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。 ・鋼アーチ支保工、ロックボルトの突出。</p>		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p>		

単位：mm

改定内容

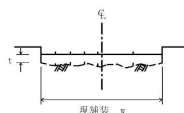
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
8 道 路 編	6 ト ン ネ ル (N A T M)	5 覆 工	3		覆工コンクリート工	基準高 (拱頂)	±50
						幅 w (全幅)	-50
						高さ h (内法)	-50
						厚 さ t	設計値以上
						延 長 L	—
8 道 路 編	6 ト ン ネ ル (N A T M)	5 覆 工	5		床版コンクリート工	幅 w	-50
						厚 さ t	-30

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>(1) 基準高、幅、高さは、施工 40m につき 1 箇所。 (2) 厚さ (イ) コンクリート打設前の巻立空間を 1 打設長の終点を図に示す各点で測定。中間部はコンクリート打設口で測定。 (ロ) コンクリート打設後、覆工コンクリートについて 1 打設長の端面（施工継手の位置）において、図に示す各点の巻厚測定を行う。 (ハ) 検測孔による巻厚の測定は図の (1) は 40m に 1 箇所、(2)～(3) は 100m に 1 箇所の割合で行う。 なお、トンネル延長が 100m 以下のものについては、1 トンネル当たり 2 箇所以上の検測孔による測定を行う。 ただし、以下の場合には、左記の規格値は適用除外とする。 ・良好な地山における岩又は吹付コンクリートの部分的な突出で、設計覆工厚の 3 分の 1 以下のもの。 なお、変形が収束しているものに限る。 ・異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付け時には安定が確認されかつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。 ・鋼アーチ支保工、ロックボルトの突出。 計測手法については、従来管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形計測要領(案)」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることが出来る。</p>		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p>		

現行

編 章 節 条 枝番	工 種	測定項目	規 格 値	
			個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X̄)
8 道路編 14 道路維持 4 舗装工 5	切削オーバーレイ工	厚さ t (切削)	-7	-2
		厚さ t (オーバーレイ)	-9	
		幅 w	-25	
		延長 L	-100	
		平坦性	—	3mプロファイルター (σ)2.4mm 以下 直読式 (足付き) (σ)1.75mm 以下

単位：mm

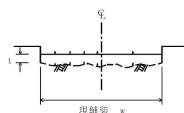
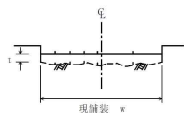
測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
厚さは 40m 毎に「現舗装高と切削後の基準高の差」「切削後の基準高とオーバーレイ後の基準高の差」で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、延長 40m 未満の場合は、2 箇所/施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。	 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	

新規追加

改定内容

編 章 節 条 枝番	工 種	測定項目	規 格 値	
			個々の測定値 (X)	測定値の平均 (X̄)
8 道路編 14 道路維持 4 舗装工 5 1	切削オーバーレイ工	厚さ t (切削)	-7	-2
		厚さ t (オーバーレイ)	-9	
		幅 w	-25	
		延長 L	-100	
		平坦性	—	3mプロファイルター (σ)2.4mm 以下 直読式 (足付き) (σ)1.75mm 以下
8 道路編 14 道路維持 4 舗装工 5 2	切削オーバーレイ工 (面管理の場合) 厚さ t または標高較差 (切削) のみ	厚さ t (標準較差) (切削)	-17 (17)	-2 (2)
		厚さ t (オーバーレイ)	-9	
		幅 w	-25	
		延長 L	-100	
		平坦性	—	3mプロファイルター (σ)2.4mm 以下 直読式 (足付き) (σ)1.75mm 以下

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
厚さは 40m 毎に「現舗装高と切削後の基準高の差」「切削後の基準高とオーバーレイ後の基準高の差」で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、延長 40m 未満の場合は、2 箇所/施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。	 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
1. 施工履歴データを用いた出来形管理要領 (案) (路面切削工編) に基づき出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 計測は切削面の全面とし、すべての点で設計面との厚さ t または標高較差 (切削) を算出する。計測密度は 1 点/m ² (平面投影面積当たり) 以上とする。 3. 厚さ t または標高較差 (切削) は、現舗装高と切削後の基準高との差で算出する。 4. 厚さ (オーバーレイ) は 40m 毎に「切削後の基準高とオーバーレイ後の基準高の差」で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 5. 幅は、延長 80m 毎に 1 ヶ所の割とし、延長 80m 未満の場合は、2 ヶ所/施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。	 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	

単位：mm

現行

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値	
							個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X ₁₀)
8 道 路 編	14 道 路 維 持	4 舗 装 工	7		路 上 再 生 工	路 盤 工	厚さ t	-30
							幅 w	-50
							延長 L	-100

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は延長 80m 毎に 1 箇所の割で測定。 厚さは、各車線 200m 毎に左右両端及び中央の 3 点を掘り起こして測定。		

単位：mm

改定内容

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値	
							個々の測定値 (X)	測定値の平均 (X̄)
8 道 路 編	14 道 路 維 持	4 舗 装 工	7		路 上 再 生 工	路 盤 工	厚さ t	-30
							幅 w	-50
							延長 L	-100

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は延長 80m 毎に 1 箇所の割で測定。 厚さは、各車線 200m 毎に左右両端及び中央の 3 点を掘り起こして測定。		